

全学総決起集会貫徹

値上げ策動粉碎に二百名決起

神田

「生」を問の闘いとして、われわれは持続的に闘いを組んでいかねばならない。

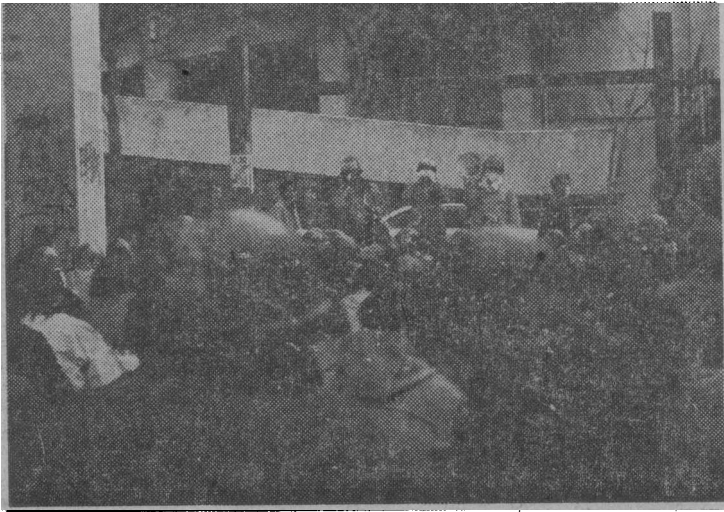
そして、この日設定された「連合教授会」は無期延期となり、われわれの戦いが高揚するにつれて、柔軟な姿勢を見せる当局のやり口は、ますます巧妙になり、今回、当局が断念した学費全面値上げも一方で「受験料値上げ」という既成事実を作る中で、来年度値上げも着々と準備されている。今こそ学費値上げ阻止二部隊阻止の戦線を準備せよ。

を有していた。この闘いの決起、クラスの広汎な学生闘争をたぎらせる学費値上げ阻止闘争としてののみならず、本質にせまる闘いとして展開されるだろう。

中教務総線に對し、具体的に闘いを組む中、結成した一人一人の

十二月十一日、本校学館前に結集した学生約三〇〇名。「学費値上げ阻止全学総決起集会」は69年10・9以降の完全ロックアウト体制下噴出したエネルギーの結集点として存在した。十日、和泉における、クラス闘争委討論集会の昇揚、さらに生田における九・十日

の大衆団交における燃発を二気に高揚させる闘いと組まれた。戦後における、教育への国家の収奪はますますそれを力として感じさせない程に完成し、自ら「帝國主義者」として育てあげられていく、その自己体を拒否しえないよの資本に従順な人間を



学館解放広場を埋めつくす学友

作りあげるものとして完遂されつつある。明大闘争の敗北以降の一切の口根をかなぐり捨てた当局の渾任は、今、再びクラス・サークルの決起をもって打ち破られた。圧倒的 大衆的拳毛が明大通りに出るやいなや、駅附近にいた機動隊が一気に襲いかかり、デモ隊を7号館、11号館まで追い散らし、マロニエ通りを制圧した。この完全治安体制は69年10・9以降恒常的に、権力と当局によって作りだされていったものであり、「神田治安体制」はいまはつきりとわれわれの前に登場している。十一日の闘いは明確にそのことを示しているだろう。学内闘争は権力との直接的対決をぬきには一切語りえなくなっている。そして、本校学館ロックアウトもその一環として明確にあるだろう。

そして、再度、学館前で集会を開いていった。様々なサークル・諸戦線の発言が続く中で、新たに新闘争委員会が69年以来、初めて大衆的集会に登場した。あの69年明大闘争の中で、きわめて水統的・根底的闘いを展開した闘争委が再び二十名の結集をもって、よみがえった。資問題は当局の最も弱い環であったが故、そして学生諸君の自己の生活をかけた闘いであつたが故、すべからず高度な内容